

鹿嶋市・神栖市のピーマン生産者と取引のある資材店を対象に  
モザイク病抵抗性品種の適正利用を周知しました

令和5年9月21日から9月27日にかけて、鹿嶋市、神栖市のピーマン生産者と取引のある資材店8店に対し、ピーマンのモザイク病抵抗性品種の適正利用を呼びかけました。

近年、産地では「モザイク病」と呼ばれる収穫物の収量に多大な影響を及ぼすウイルス病の被害が拡大しており、産地一丸となった蔓延防止対策に取り組んでいます。しかしながら、産地にはJAや任意組織に所属していない個人出荷の生産者も多数おり、普及センターからの病害虫対策に関する啓発活動が行き届かないことが課題となっていました。

そこで、個人出荷の生産者とも取引のある資材店からも本病害について生産者へ指導をしてもらえるよう依頼しました。主な依頼内容は、①ウイルスの汁液感染を防ぐための洗浄や消毒の重要性、②診断キットを利用したウイルス病の早期発見・早期対策、③モザイク病抵抗性品種の適正利用について、資料を用いて依頼しました。

資材店からは、「紙包み法による定植の具体的な実施方法は？」等、多数の質問がありモザイク病に対する関心の高さがうかがえました。

普及センターでは引き続き、ピーマンの高品質安定生産につながる病害対策技術の普及を通して、ピーマン生産者の所得向上を支援していきます。



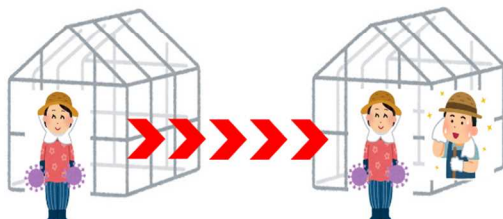
## ピーマンモザイク病（ウイルス） 感染拡大防止にご協力を！

ピーマンモザイク病（ウイルス）の感染要因で最も多いものは、**接触伝染**によるものです。  
**ウイルスを含む汁液が手や作業服に付着**し、ピーマンに接触することで感染します。

### 《接触伝染による感染経路の例》

A氏ハウス（感染）

B氏ハウス（未感染）



A氏は、摘芯（ピンチ）・誘引作業をした後、  
手洗い・作業服の交換をせず、B氏のハウス  
に入り作業を手伝った。  
その結果、B氏のハウスも感染した。



**注意！**  
ウイルスが手や作業服に  
付着していますよ！



**作業後は、石けんで手を洗いましょう。**  
**作業服の着替えをしましょう。**



一人一人の心掛けが、感染拡大防止に繋がります。

- 作業時の注意点（手袋・ハサミの使い回し、摘芯（ピンチ）・誘引・収穫等）
- 作業後の手洗い
- 作業服の交換・洗濯
- 農業資材・器具の洗浄（支柱、コンテナ、薬剤噴霧器等）

鹿島・神栖地域ピーマン産地代表者会議事務局

■なめがたしおさい農業協同組合  
鹿島営農経済センター ☎0299-69-0080  
神栖営農経済センター ☎0299-92-0508  
波崎営農経済センター ☎0479-48-7755

しおさい地域センター ☎0299-93-5527  
須田資材センター ☎0479-46-0005

■鹿行農林事務所経営・普及部門  
地域普及第二課 ☎0291-33-6198  
鹿島地帯特産指導所駐在 ☎0299-92-3638



## 正しい対応で農家の経営を守る！ ピーマンモザイク病（ウイルス）防除対策

ピーマンモザイク病は、ピーマンやパプリカ、トウガラシに感染するウイルス病の一つです。

接触伝染や土壌伝染により感染する病気で、発病すると生長点付近の葉がまだらに黄化するのが特徴で、進行すると果実が変形し収量が減少します。

感染してしまった場合の対応策として、土壌中のウイルス濃度が下がるまでは、健全ハウスも含めた全ハウスで、抵抗性を持つL4品種に切り替える必要があります。

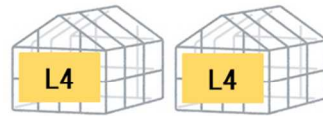


### 打破防止のために、L4品種を適正に利用しましょう！

～押さえておきたい3つのポイント～

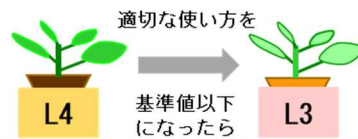
#### 《L4品種とL3品種を混植しない》

ウイルス濃度が基準値以上の場合は、**全てのハウス・作型でL4品種に切り替える必要があります。**



#### 《土壌中のウイルス濃度が基準値以下になったら、L3品種に戻す（L4品種を植え続けない）》

予防的にL4品種を植えないようにしましょう。打破されるリスクが高まります。



#### 《抑制作型ではなるべく「紙包み法」で定植する》

ちり紙などを用い、定植時に根が土壌に触れないようにして定植する方法です。過敏感反応によって株が枯死するリスクを低減します。



#### 《重要》

L4品種の抵抗性が打破された場合、モザイク病の防除方法はなくなります。

L4品種の不適切な利用は、抵抗性打破のリスクを高めます。

そのため、L4品種を適切に利用する必要があります。

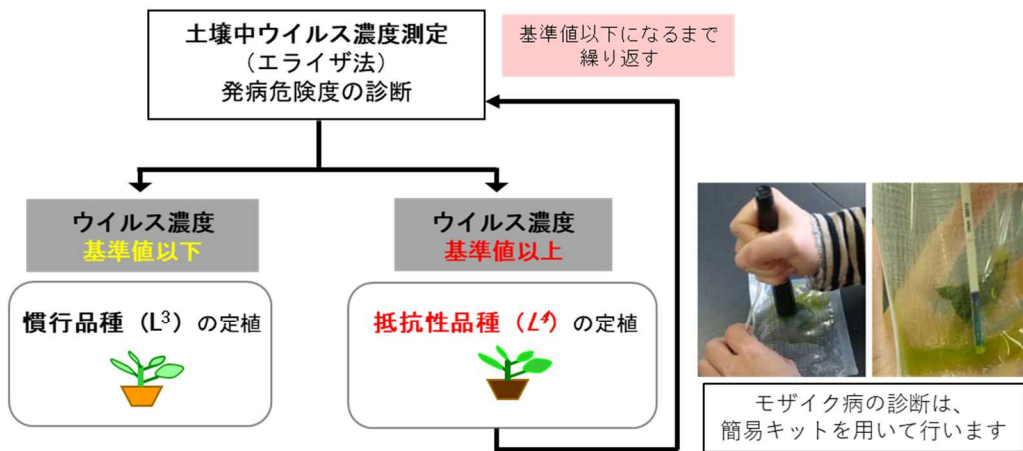


#### 抵抗性品種L4とは？

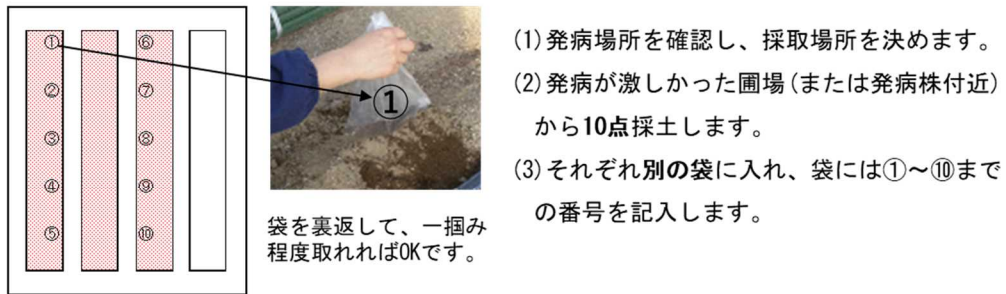
抵抗性品種は、ウイルスが植物体に感染できず、増殖することがありません。その結果、発病圃場でL4品種を一定期間栽培することで、土壌中のウイルス濃度が低下します。



《モザイク病が発病した場合 次作の対応（診断～対策までの流れ）》

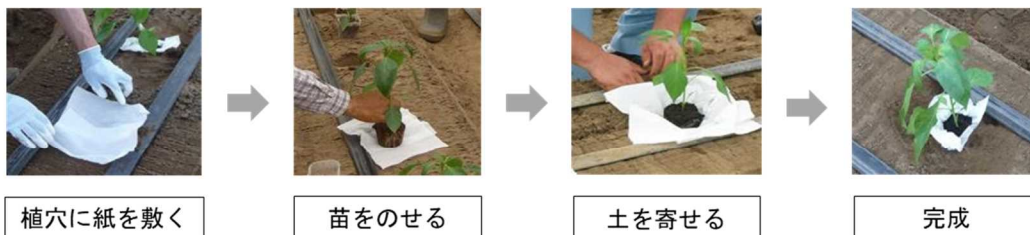


《エライザ用の土壌採取の方法について》



《紙包み法を活用し、ウイルスの侵入を防止！》

紙包み法による定植は、根を傷つけず、傷口からウイルスが侵入することを防いでくれます。定植後の管理として、乾燥しやすいため、根回しかん水が効果的です。



モザイク病の診断に関するご相談先

■なめがたしおさい農業協同組合  
 鹿島営農経済センター ☎0299-69-0080  
 神栖営農経済センター ☎0299-92-0508  
 波崎営農経済センター ☎0479-48-7755  
 しおさい地域センター ☎0299-93-5527  
 須田資材センター ☎0479-46-0005

■鹿行農林事務所経営・普及部門  
 地域普及第二課 ☎0291-33-6198  
 鹿島地帯特産指導所駐在 ☎0299-92-3638

疑わしい株がございましたら、ご相談ください。

鉾田普及センター（成長産業）